

高知県感染症発生動向調査（週報）

2014年 第32週（8月4日～8月10日）

★お知らせ

○ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

ウイルスやリケッチアなどの病原体を保有するマダニに刺されることで感染する「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」「日本紅斑熱」が多くなっています。農作業や庭仕事、レジャーなど野外で活動する際には、長袖、長ズボンなどを着用して皮膚の露出を避けましょう。吸血中のマダニを見つけた時はできるだけ医療機関で処置してもらってください。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診してください。

高知県では今年、SFTSは5月に1例、6月に3例、7月に4例（内1例は愛媛県に発生届け）、日本紅斑熱は5月に1例、6月に2例、7月に2例報告されています。

参考：マダニ対策、いまできること（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html>）

○ヘルパンギーナに注意しましょう！

定点医療機関からの報告数は前週の2.87から3.20とほぼ横ばいですが、幡多福祉保健所管内では2週連続警報値を超えています。いわゆる夏かぜの代表的疾患で、突然の高熱とノドの痛みを特徴とします。倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。こまめな水分補給を心がけてください。回復後も1ヶ月間にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避け、こまめに手洗いを行いましょう。

○感染性胃腸炎に注意しましょう！

定点医療機関からの報告数は前週の1.43から3.03と2倍以上増加しています。夏季の胃腸炎の原因としてはカンピロバクターなどの細菌が多くなっています。予防法は、こまめな手洗いや台所周辺を清潔にし、調理の時には中心部まで十分に加熱しましょう。

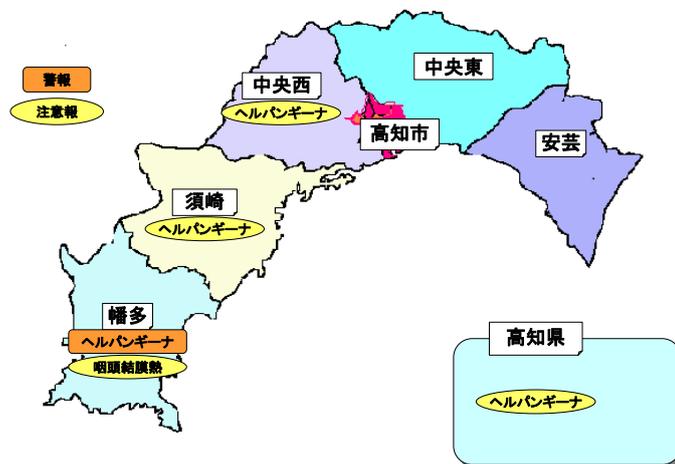
★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
ヘルパンギーナ	→	3.20	幡多で増加し警報値を、中央西、須崎では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↑	3.03	須崎以外の全ての地域で増加しています。
流行性耳下腺炎	↗	0.90	須崎、幡多、中央西で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	0.57	中央西、高知市、須崎で増加しています。
咽頭結膜熱	↗	0.50	幡多、中央東で増加し、幡多では6週連続注意報値を超えています。

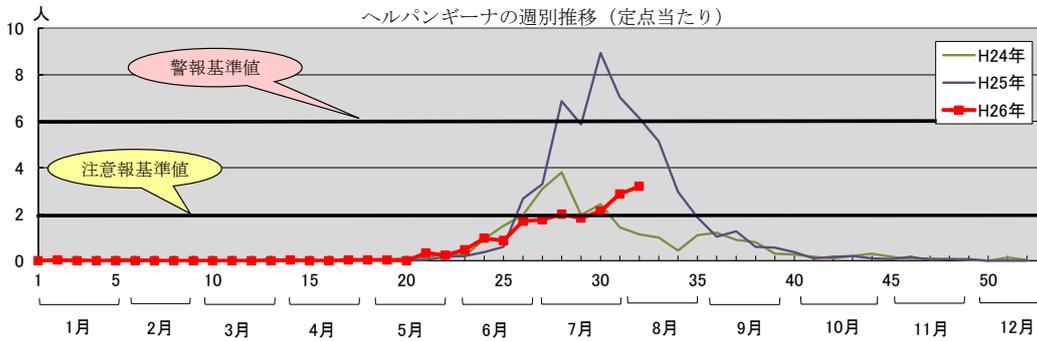
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

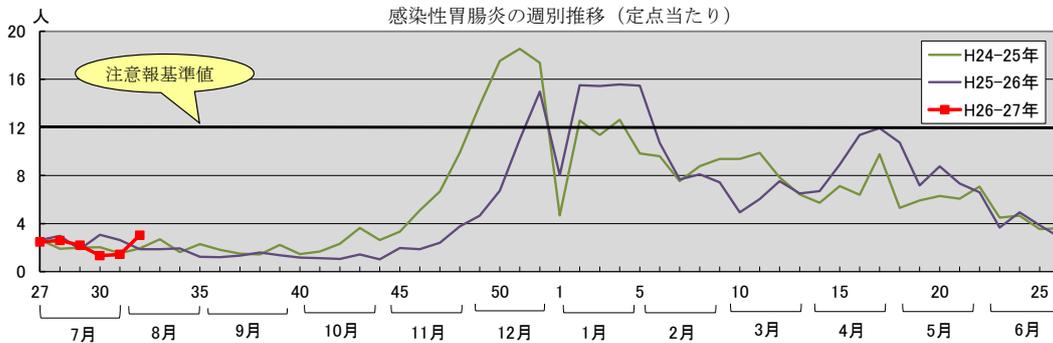
○ヘルパンギーナ：3.20（注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.20（前週：2.87）と3週連続で注意報値を超えています。地域別にみると、幡多（10.80：前週 7.00）で増加し警報値を、中央西（3.33：前週 4.00）、須崎（2.00：前週 2.50）では注意報値を超えています。年齢別にみると約 95%が 0～5 歳になっています。



○感染性胃腸炎：3.03（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.03（前週：1.43）と2倍以上増加しています。地域別にみると、安芸（7.00：前週 3.00）中央東（5.57：前週 1.86）中央西（4.00：前週 0.00）高知市（1.91：前週 1.82）幡多（1.00：前週 0.40）で増加しています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
4 類	日本紅斑熱	1	5	60 歳代 (男)	幡 多

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
32	咽頭結膜熱	1	女	高知市	Rhinovirus

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
29	咽頭炎	2	男	高知市	Echovirus 11
29	ヘルペスウイルス感染症	1	男	須崎	Human herpes virus 6
31	突発性発疹もしくはエンテロウイルス感染症	3	女	幡多	Human herpes virus 6

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染性胃腸炎 1 例 (2 歳)
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 1 例 (2 歳女) マイコプラズマ肺炎 1 例 (13 歳男)
中央西	石黒小児科	帯状疱疹 (ヘルペスウイルス) 1 例 (1 歳男)
	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 1 例 (10 歳女：県外)
須 崎	もりはた小児科	アデノウイルス扁桃炎 1 例 (1 歳男)
幡 多	さたけ小児科	膿痂疹 3 例 (3 歳男、3、7 歳女) アデノウイルス感染症 2 例 (1、5 歳男) 伝染性単核症 1 例 (8 歳男) ヘルペス歯肉口内炎 1 例 (7 歳女)

★全国情報

第30週 (7/21～7/27)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核340例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症163例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎1例、チクングニア熱1例、つつが虫病1例、デング熱2例、日本紅斑熱3例、マラリア1例、ライム病1例、レジオネラ症26例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎5例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群16例、ジアルジア症1例

侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症8例、梅毒28例、破傷風3例、風しん2例

報告遅れ：E型肝炎3例、日本紅斑熱3例、ライム病1例、急性脳炎6例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例

★西アフリカ諸国におけるエボラ出血熱の流行2014年

エボラ出血熱は、近年ではエボラウイルス病 (Ebola virus disease : EVD) と呼称されることが国際的に多い。EVDの最も一般的な症状は、突然の発熱、強い脱力感、筋肉痛、頭痛、喉の痛みなどに始まり、その後、嘔吐、下痢、発疹、肝機能および腎機能の異常、さらに症状が増悪すると出血傾向となる。検査所見としては白血球数や血小板数の減少、および肝酵素値の上昇が認められる。潜伏期間は2日から最長3週間といわれており、汚染注射器を通じた感染では短く、接触感染では長くなる。集団発生では致命率は90%にも達することがある。また、EVDの元々の宿主はコウモリの一種ではないかと考えられている。感染した人または動物の血液などの体液と直接接触した場合に感染の危険が生じる。

2014年に西アフリカ諸国で起こっているEVDの流行は3月にギニアで集団発生が報告され、その後、隣国のリベリア、シエラレオネへと拡大している。世界保健機関 (WHO) の報告によると、2014年8月4日現在、ギニアで臨床的にEVD患者とされた累計症例数は495例 (うち死亡363例)、リベリアでは516例 (同282例)、シエラレオネでは691例 (同286例) であった。リベリア及びシエラレオネでの流行は依然として深刻な状況にあり、一方、ギニアでは一時減少傾向にあったが、最近新規症例が急増している。7月には、リベリア人の40歳男性が空路でナイジェリアへの渡航中に発症、ナイジェリアの病院でEVDと診断され、数日後に死亡した。ナイジェリアでEVD感染者が確認されたのは初めてであった。この患者は航空機での移動中の発症であったため、搭乗者を含む接触者の調査が行われている。その後、ナイジェリアでは疑いのある症例まで含め、8月4日現在で計9例が報告されている。感染者は4カ国で1,700人、死者は900人を上まわっている。現時点で、EVD発生を理由として、WHOはギニア、リベリア、シエラレオネへの渡航や貿易の制限を推奨していない。今後発生国からの渡航者や帰国者による他国への感染拡大等が起こらないよう、流行状況を慎重かつ継続して監視していくことが重要である。

WHOは7月24日の協議において、参加国と関係機関がEVDの流行に対して更なる人的・財政的協力を行っていくことを確認した。こうした中、リベリアでは7月に、NGO (非政府組織) の活動としてEVD患者の治療に当たっていた米国人の医師など2人がEVDに感染した。現在、日本の専門家がWHOのエボラ対策ミッションに参加しており、民間からもこれらの国で活動している方がいる可能性がある。EVD感染者の継続した増加や感染拡大による現地での医療関連感染が懸念されることから、現地でエボラ対策に従事する場合は感染防止策の徹底が求められる。

EVDは基本的に稀な疾患であるが、現時点でワクチンはない。現地では他人の体液 (排泄物を含む) や、感染者の体液に接触した可能性のある物品にできるだけ触れないようにし、手洗いを含む注意深い衛生手技を実践することが重要である。

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第32週 平成26年8月4日(月)～平成26年8月10日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第32週							計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計)		全国(31週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H25/12/30～H26/8/10				H25/12/30～H26/8/3			
インフルエンザ	インフルエンザ								()	()	135 (0.03)	10,739 (223.73)	1,462,233 (296.78)			
小児科	咽頭結膜熱			2		1			12	15 (0.50)	12 (0.40)	1,880 (0.60)	230 (7.67)	50,083 (15.92)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2		9	4	1	1	17 (0.57)	9 (0.30)	3,427 (1.09)	600 (20.00)	195,510 (62.15)		
	感染性胃腸炎	14	39	21	12				5	91 (3.03)	43 (1.43)	10,728 (3.41)	7,122 (237.40)	660,245 (209.87)		
	水痘		9		4				1	14 (0.47)	26 (0.87)	2,018 (0.64)	1,072 (35.73)	105,547 (33.55)		
	手足口病				1				1	2 (0.07)	1 (0.03)	3,516 (1.12)	48 (1.60)	31,891 (10.14)		
	伝染性紅斑				2	1				3 (0.10)	()	657 (0.21)	26 (0.87)	17,888 (5.69)		
	突発性発疹	1			6	2	2		3	14 (0.47)	10 (0.33)	1,937 (0.62)	407 (13.57)	51,823 (16.47)		
	百日咳									()	()	48 (0.02)	8 (0.27)	1,234 (0.39)		
	ヘルパンギーナ	3	13		12	10	4		54	96 (3.20)	86 (2.87)	13,838 (4.39)	558 (18.60)	80,480 (25.58)		
	流行性耳下腺炎				9	3	5		10	27 (0.90)	16 (0.53)	1,063 (0.34)	1,213 (40.43)	26,572 (8.45)		
RSウイルス感染症									()	()	446 (0.14)	297 (9.90)	24,384 (7.75)			
眼科	急性出血性結膜炎									()	()	19 (0.03)	()	257 (0.38)		
	流行性角結膜炎									()	()	475 (0.69)	21 (7.00)	12,055 (17.65)		
基幹	細菌性髄膜炎									()	()	12 (0.03)	8 (1.00)	260 (0.55)		
	無菌性髄膜炎									()	()	25 (0.05)	11 (1.38)	544 (1.15)		
	マイコプラズマ肺炎				2					2 (0.25)	4 (0.50)	111 (0.24)	141 (17.63)	3,467 (7.33)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									()	()	2 ()	8 (1.00)	203 (0.43)		
	感染性胃腸炎									()	()	5 (0.01)	136 (17.00)	3,807 (8.05)		
計(小児科定点当たり人数)	18 (9.00)	65 (9.30)	66 (5.82)	33 (10.99)	12 (6.00)	87 (17.40)	281 (9.31)			40,342	22,645 (609.77)	2,728,483				
前週(小児科定点当たり人数)	11 (5.50)	38 (5.29)	70 (6.09)	16 (5.33)	15 (7.50)	57 (11.40)		207 (6.76)								

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第32週							計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計)		全国(31週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H25/12/30～H26/8/10				H25/12/30～H26/8/3			
インフルエンザ	インフルエンザ											0.03	223.73	296.78		
小児科	咽頭結膜熱			0.29		0.33				2.40	0.50	0.40	0.60	7.67	15.92	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.29		0.82	1.33	0.50	0.20	0.57	0.30	1.09	20.00	62.15		
	感染性胃腸炎	7.00	5.57	1.91	4.00				1.00	3.03	1.43	3.41	237.40	209.87		
	水痘		1.29		0.36				0.20	0.47	0.87	0.64	35.73	33.55		
	手足口病				0.09				0.20	0.07	0.03	1.12	1.60	10.14		
	伝染性紅斑				0.18	0.33				0.10		0.21	0.87	5.69		
	突発性発疹	0.50			0.55	0.67	1.00	0.60		0.47	0.33	0.62	13.57	16.47		
	百日咳											0.02	0.27	0.39		
	ヘルパンギーナ	1.50	1.86		1.09	3.33	2.00	10.80		3.20	2.87	4.39	18.60	25.58		
	流行性耳下腺炎				0.82	1.00	2.50	2.00		0.90	0.53	0.34	40.43	8.45		
RSウイルス感染症											0.14	9.90	7.75			
眼科	急性出血性結膜炎										0.03		0.38			
	流行性角結膜炎										0.69	7.00	17.65			
基幹	細菌性髄膜炎										0.03	1.00	0.55			
	無菌性髄膜炎										0.05	1.38	1.15			
	マイコプラズマ肺炎				0.40					0.25	0.50	0.24	17.63	7.33		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)											1.00	0.43			
	感染性胃腸炎										0.01	17.00	8.05			
計(小児科定点当たり人数)	9.00	9.30	5.82	10.99	6.00	17.40	9.31				609.77					
前週(小児科定点当たり人数)	5.50	5.29	6.09	5.33	7.50	11.40		6.76								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869